

# 三年生だより

No. 18

令和8年 2月25日  
太宰府市立太宰府西中学校  
文責 江崎 彰泰

## 卒業式歌「群青」

～大切な友を思い、いつの日か再会することを願いながら～

「群青」は、東日本大震災による原発事故のため全住民が避難生活を余儀なくされた地域の福島県南相馬市立小高中学校の生徒たちが、離ればなれになってしまった仲間を思って、つぶやいたり、書き留めた言葉の数々を同校の小田教諭が綴って曲をつけた作品です。2013年3月に行われた復興支援コンサートで同校合唱部によって演奏され、会場に大きな感動を呼び起こしました。

東日本大震災から十余年の時を経て、いまや卒業式の定番となった合唱曲『群青』の作者が、当時を振り返り語った、制作秘話を紹介します。

小高中学校の卒業式で『群青』を初めて歌った学年は、1年生の年度末に東日本大震災に遭いました。この学年は津波で2名の仲間を失い、原子力発電所の事故で町は避難区域となり、生徒たちは全国に散り散りになりました。他校に間借りした仮設校舎に当初戻ってこられたのは7名だけでした。

この子たちには、彼らの心情に寄り添った曲を選ぼうと決めました。でも、そんな曲は見つからず、「ないなら、つくるしかない」と思ったんです。「自分はこういう思いを持っていた」と思えるような曲を。その元になったのは、彼らの作文や発言などの膨大な資料です。

詩をつくるときに心がけたのは、直接的な言葉を使わないこと。地震・津波・死……それから「会えない」などの否定的な表現です。「明日も会えるのかな」という歌詞も、実際には放課後に話し込んでいた子たちに私が「早く帰りなさい」と促したときの、彼女たちの「明日もう会えないかもしれないだよ!」という言葉でした。

ある日、各地に避難していった仲間たちの写真を日本地図に貼って大きな作品をつくることに。友達の写真を貼りながら「こんな遠くにいるんだ」と泣き出した子もいました。すると、そこで鉄道好きの男の子が「この電車に乗れば、この道を通れば行ける」と説明してくれ、「それに、空はつながっているからね」と言ったのです。彼の言葉は私の心にずしんと響きました。この彼の言葉は「君も同じ空 きっと見上げてるはず」という歌詞になりました。

「どんな思いでこの曲を歌えばいいのですか」という質問もたくさんいただきます。この曲を通して震災について知り、私たちの背景を汲んで歌ってくださるのはありがたいです。でも、卒業式の合唱として選曲してくださる方は、「またここで会おう」というメッセージや一緒に見た光景、一緒に感じた感情というところに共感して下さっているのでしょうか。どの地域の中学生も思い悩みながら3年間を過ごしているだろうし、その気持ちをのせて歌っていただければうれしいです。

2025年2月

福島県いわき市立玉川中学校教諭 小田美樹

## 群青

作詞 南相馬市立小高中学校平成 24 年度卒業生  
作曲 小田美樹(南相馬市立小高中学校音楽教諭)



ああ あの町で生まれて  
君と出会い  
たくさんの思い抱いて  
一緒に時間を過ごしたね  
今 旅立つ日  
見える景色は違っても  
遠い場所で 君も同じ空  
きっと見上げてるはず

「またね」と 手を振るけど  
明日も会えるのかな  
遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕陽  
あの日見た花火  
いつでも君がいたね  
あたりまえが 幸せと知った  
自転車をこいで 君と行った海  
鮮やかな記憶が  
目を閉じれば 群青に染まる



あれから2年の日が  
僕らの中を過ぎて  
3月の風に吹かれ 君を今でも思う

響け この歌声  
響け 遠くまでも  
あの空の彼方へも  
大切な すべてに届け  
涙のあとにも 見上げた夜空に  
希望が光ってるよ  
僕らを待つ 群青の町で

きっと また会おう  
あの町で会おう  
僕らの約束は  
消えはしない 群青の絆

また 会おう 群青の町で・・・



### 真実のうた「群青」

この曲は決して単なる卒業ソングではない。別れを告げることも、再会を誓うことも出来ないままそれきりになった友たちへの心からのエールである。故郷と友、そしてそこで過ごした時間に思いを寄せる「真実のうた」である。

私が今までに出会った曲の中でも、この曲ほど思いの詰まったものはない。

本山秀毅(合唱指揮者)

### 保護者のみなさまへ

卒業式で披露する合唱曲が、「群青」に決まりました。詞、メロディーともに、中学校を巣立っていく子どもたちにふさわしい素敵な曲です。

そこで、この合唱曲が生まれた経緯や込められている思いを紹介させていただきました。本番での3年生最後の学年合唱をご期待ください。